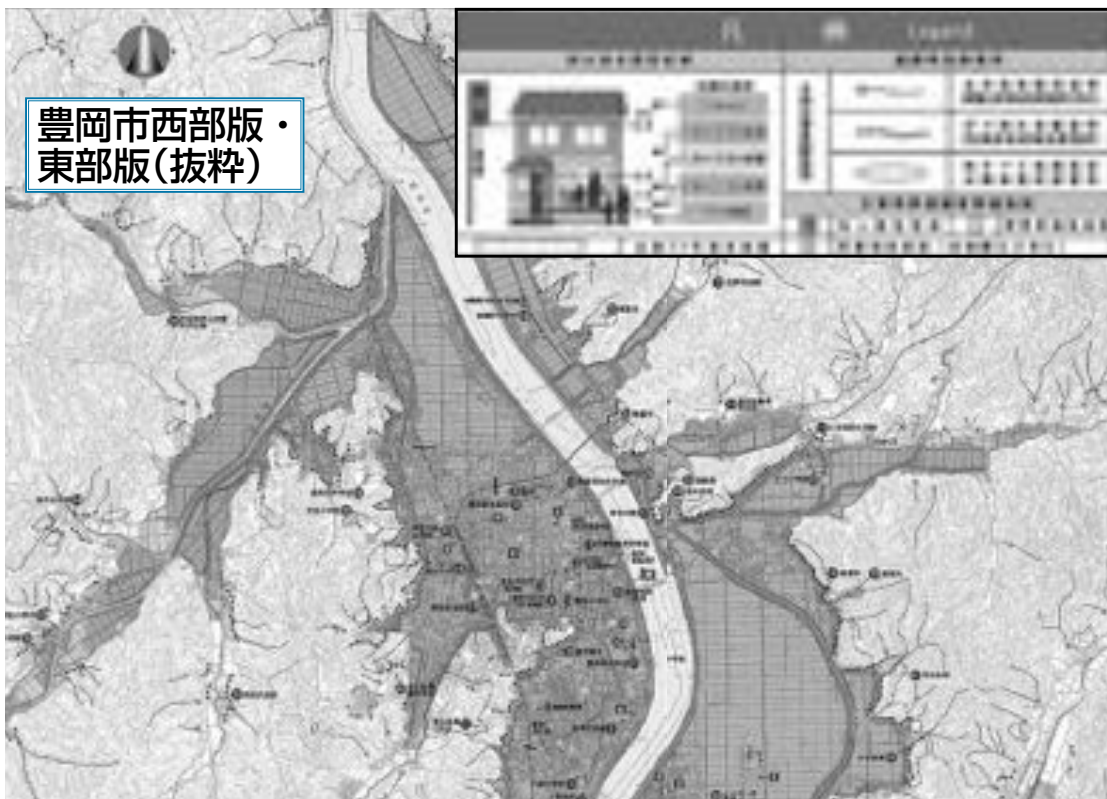
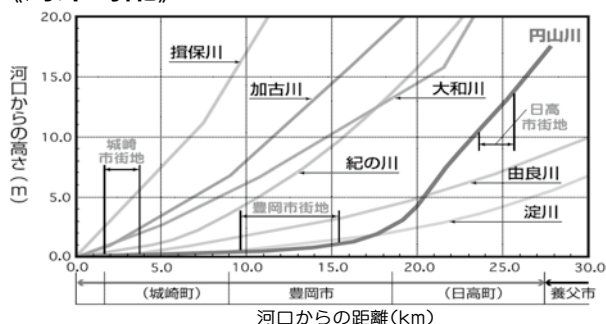


円山川の特徴を知る



《河床勾配》



上: 円山川などの地域の主要河川の堤防が決壊したときに起こりうる最悪の場合の浸水状況を示しています。100年に1回起こりうる大雨を想定してしています。豊岡の市街地のほとんどが水深5m以上の想定です。

左: 円山川の河床の勾配を示しています。河口から10km上流に行って高低差約1m、ほとんど水平状態の河川です。底には海の水が忍び込んで、カレイやアジが釣れるような状態です。

流れない下流域

円山川は、本川の勾配が支川より緩やかで、洪水が豊岡盆地に集中しやすい地形です。また、河床勾配が出石川合流点付近で大きく変化しており、下流は9千分の1程度と非常に緩やかです。上・中流区間やそこに流入する支川の勾配は下流に比べて急です。このため、豊岡盆地では上流の本支川から集中した水が流下しにくくなっており、また、

盆地内に位置する低平地では大雨による内水被害が発生しやすいという特徴があります。豊岡盆地には人口、資産が集中する市街地が広がっているため、ひとたび洪水が発生すると甚大な被害につながります。過去の主な洪水は、外水氾濫と内水氾濫が相まって発生したものがほとんどです。

《参考》 円山川水系河川整備計画(国管理区間)平成25年3月・近畿地方整備局



普段は鏡のように美しい円山川下流域の水面



元民生児童委員
(西花園区)
山本公子さん

高齢者には、足腰が弱い方もあり、浸水すると避難の移動がとても危険です。隣近所で助け合う仕組みが必要だと感じました。

助け合う仕組み作りも必要

台風23号災害のとき、民生児童委員として区の一人暮らしの方や高齢者、障害者の見守りをしていました。当日は、家屋が浸水し始めたことに気付かず、避難勧告が出たときには、外は30cmぐらいの水位がありました。私は外に出ることが危険だと感じたので、約50軒の対象者に電話で安否確認をしました。中には電話に出ない方もあり、とても不安に感じ、区長に願ひして水防団に確認に行ってもらいました。この災害をきっかけに、区では「ひとり暮らし高齢者マップ」を作りました。

高齢者には、足腰が弱い方もあり、浸水すると避難の移動がとても危険です。隣近所で助け合う仕組みが必要だと感じました。

自分の命は自分で守る

防災士会は、地域での自然災害を小さくするため、地域の実情に合わせた勉強会などを開催しています。私たちが常に言っていることは「自分の命は自分で守る」ということです。災害で命を失ってははいけません。水害については、皆さんが住んでいる地域が、水に浸かるかどうかを知ってください。地域の高齢者に聞いたら分かります。また、近所付き合いを大切にしてください。自身のことを知ってもらうことで、いざというときに助け合うことができます。



NPO法人兵庫県防災士会・豊岡ブロック事務長 岩崎夏雄さん

豊岡は水害とは切っても切れない地域です。上手に付き合うしかありません。覚悟を決めることで、落ち着いて行動ができます。

まずは「自助」

自らの命は自らで守ることが「自助」です。

災害時にやるべきことは『逃げる』ことです。

『黄金の72時間』という言葉が防災の世界にあります。例えば、がれきの下に埋まったような場合に72時間、3日を超えると生存率が極端に下がってしまうという経験則です。

阪神淡路大震災の場合、閉じ込められた家からの脱出者—公的機関による救助はわずか5%、自力脱出80%、隣近所との助け合い15%といわれています。これが大災害の厳しい現実です。

逃げる判断は自身で

逃げるかどうかを判断するのは皆さん一人一人です。市は、円山川本流などの水位に基づき避難勧告などを出します。そのエリアには、高台で雨が関係ない人もいれば、逆に裏山が崩れる可能性のある人もいます。この状況の中で、逃げた方が助かる確率が高いのか、そうでないのか、皆さんが判断してください。

自助にも課題が…共助の必要性

自助にも、限界があります。災害時要援護者には、複数の支援者を決めておく必要があります。

▼高齢者、病人には、複数の介助者で対応し、安全な場所まで避難します。

▼目の不自由な方には、声を掛け、ゆっくりと誘導します。

▼肢体の不自由な方には、階段では2人以上が必要で、介助者が1人なら、ひもなどで、おぶって避難します。

▼耳の不自由な方には、口をハッキリと開け、分かりやすく伝え、手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝えます（「災害時安全ファイル」を所持している方もいます）。

「自助」って、何をすればいいの？

▼日頃から避難場所を確認

津波、地震、風水害など、災害によって避難場所が違う場合があります。今一度、避難場所の確認をお願いします。

▼非常時の持出し品を準備

飲料水、非常食品、衣類、懐中電灯、ラジオなどをリュックサックに入れておきましょう。また家には、3日分を目安に食料などを備蓄しておきましょう。

▼早めの避難の心掛け

特に、高齢者、目や耳が不自由な方、車いすの方などは、早め早めに避難をしてください。

